

「簡便で低コストな森林生態系の評価手法を確立するための基礎調査」 林業等の事業活動による森林生態系への影響を回避・低減するために

イベントの 延べ参加者数	48 人
イベント参加者の 満足度	80%
活動の全体目標 に対する達成度	80%



植生調査中（広葉樹林）

◆成果と工夫したポイント

●成果

20 回超の対面調査により、「森林資源の保全と利用のための手順」(案)を検討。企業約 40 社、市民 57 人を対象に、森林保全等についての意識調査を実施。植生調査をスギ人工林で 22 カ所、広葉樹林で 8 カ所実施。

●工夫

文献等の重要情報を、現場での利用を念頭に、实际的な情報を取得するため、直接本人から話を聞くよう努めた。

課 題

木質バイオマス利用や、地域活性化のための森林資源利用促進によって、強化・拡大されつつある林業等の日常的な事業活動によって発生する、森林生態系への負荷の回避・低減。

目 標

専門家・関係機関とのネットワーク構築、事業活動等による森林生態系への影響を最小化するための手順の案を策定。保全のための追加的コストを、都市住民・企業を含む広範な関係者に負担する仕組みづくりのための調査。

活動内容

森林生態系の保全と利用の現状把握のため、インターネット・文献等から情報収集・整理し、専門家・関係機関とのゆるやかなネットワークを構築、「森林資源の保全と利用のための手順」の案を検討・策定。また、保全のための追加的コストを、広く市民・企業で負担する仕組みの検討のための意識調査、活動報告会を実施。報告書をまとめ、富山県・南砺市の関係機関、地域住民及び交流のある都市住民に配布、活動への理解を深めた。



活動報告会の様子

達成できなかったこと

当初は、生物多様性を評価するための指標生物の選定を想定したが、至らなかった。評価以前のゾーニング・調査等の手順の重要性に傾き、具体的な評価まで踏み込めなかった。

今後の展望

本成果を実践、順応的に修正し、実効性を高め、保全効果を客観的に評価し、費用負担の仕組作りにつなげる。